

『村のすごい！』を見つけよう

ふるさとを元気にするESDプログラム

学校の森 子どもサミット

西粟倉村の概要

- ・人口は、1,519人／576世帯／高齢化率34.2%（H28.1）
- ・面積は、57.93km² 内95%が森林が占める。そのうち85%が人工林
- ・標高は、263m～1280m
- ・気候は、年間平均気温11度、年間平均降水量約2,000mm
- ・予算は、平成26年度一般会計予算 約19.5億円
- ・交通は、智頭急行線（第三セク）・鳥取自動車道により関西へアクセス充実。

戦後植林



ー村のPRー

若杉天然林（ブナ林）。氷ノ山那岐山後山国定公園特別保護地区
中国山地を代表するブナ林

バードウォッチング
森林浴



- ◇年間出生数 11（H26）
- ◇幼稚園・小学校・中学校各1校園
（幼稚園46名、小学校72名、中学校31名）

ー環境ー

- ・上下水整備、幹線道路、集会所整備で満足度高い
- ・高校への通いやすさがダントツ不満
- ・村の魅力は新鮮な空気とキレイな水、鳥取兵庫へのアクセスの良さ
- ・村に必要なものは救急医療体制や就労の機会

西栗倉村の10年間

2004年(3ヶ年) 地域再生マネージャー事業（総務省）で
地域活性化への動き

同年 前西栗倉村長、住民アンケートの結果をうけて
合併協議会を離脱＝**西栗倉村自主自立**の決意

2007年 雇用対策協議会 設立＝Iターン者受入

2008年 **「百年の森林構想」**着想

2009年 (株)トビムシ 設立

2009年4月 「西栗倉村森林管理運営に関する基本合書」
締結＝**「百年の森林事業」**開始

2009年10月 (株)西栗倉・森の学校設立

2013年1月 岡山県スマートタウンパイロット地域指定

2013年3月 **環境モデル都市選定（内閣府）**

2014年3月 **バイオマス産業都市認定（農林水産省）**

2014年7月 西栗倉発電所「めぐみ」再稼働 ～売電開始～

2014年9月 オニの搬出プロジェクトスタート（木の駅P）

2015年2月 黄金泉新ボイラー竣工（GPP環境省）



「『村のすごい!』を見つけようin西栗倉村』について

- ▶ 共存の森ネットワーク主催「学校の森子どもサミット」の森林体験活動で実行するプログラムとして、村が独自に開発し実行した。
- ▶ プログラムにおいては、小学校で取り組む「ふるさと元気学習」をベースに、村の若いスタッフ（幼稚園・小学校・中学校・教育委員会・役場・地元企業）の協同・協力のもと実施。
- ▶ 村の特色ある自然環境（天然林・人工林（林業）・沢）や人材を生かした体験活動と、子どもたちの“生きる力”“学ぶ力”を育てることを融合させたプログラム。
- ▶ 「**体験・表現・交流**」する、**アクティブ・ラーニング**
- ▶ 子どもたちにはミッションとして「村の中にある『すごいもの』を探せ!」と題して、森林・村に関連したフィールドを散策する。



プログラムの具体的な展開

○ オリエンテーション

活動のテーマ付け、活動の流れと諸注意を行う。



プログラムの具体的な展開

○ふれあいグッズづくり

村の間伐材を利用した「ふるさと元気グッズ（キーホルダー）」を地域の方々と一緒に製作。



プログラムの具体的な展開

○ふるさと元気給食

地元でとれた食材をふんだんに使った給食。食材生産者を紹介・野菜づくりのエピソードを語ってもらったり、生産者と一緒に給食を食べながら交流を行う。



プログラムの具体的な展開

○天然林エリア（森林体験活動）

村の観光資源でもある“若杉天然林”をフィールドとして、音やにおいなど五感を使って活動。「『すごい！』を探せ」と題して、五感ビンゴを行う。



プログラムの具体的な展開

○人工林エリア

地域の企業「木の里工房 木薫」に協力を依頼し、スギ林の中で、高性能林業機械による間伐作業の見学と、のこぎりをを使った間伐枝打ち体験。



プログラムの具体的な展開

○沢エリア

溪流の中を散策して体験をする。水の中を歩いて冷たさを感じたり、川のせせらぎを聞く体験。溪流に沿って手入れをされた森林の中を歩く。



プログラムの具体的な展開

○まとめ資料づくり&発表会

班ごとに見つけたものの中から、何が一番すごいと思ったかを話し合い、まとめ資料を作成する。時間が限られる中では、

①すごいと思った写真を1枚選択する

②すごいと思った理由と、PRするキャッチコピーを考える

発表練習を行った後に、村の人の前で各班で見つけた「村のすごい！」を発表する。



プログラムの具体的な展開

○交流会

会場内に各班で発表したPRポスターを掲示して、参加者・村の人との交流を行う。



プログラムの具体的な展開

○活動全体を通しての振り返り

プログラムに参加して学んだこと、成長したことを話し合う。

班での振り返りの後、参加者個々での振り返りを行う。



プログラム参加者は・・・

○参加した児童・大人の感想として、以下のような声があがった。

☆児童から・・・

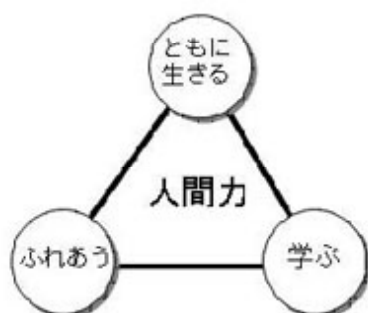
- ・先生たちがいなくても、みんなと協力して団結することが大切だと思いました。最後までやり抜くことができて自信になりました。
- ・私は知らない人が来るとすぐに緊張してしまいます。でも一緒に森に行ったとき、勇気を出して話しかると優しく答えてくれたので、すぐに仲良くなれました。

☆引率の先生から・・・

- ・問題解決力・コミュニケーション力・表現力、郷土愛を育てる西栗倉の子どもたちに必要な教育だと感じました。今求められているアクティブラーニングを取り入れた学習として素晴らしいと感じました。
- ・明確な目的、その前提となる子どもたちの役割、そしてまとめ、伝えるという手順が子どもたちに明確に設定され、実行されたことが大きな鍵になったと感じます。

ふるさと元気学習 ～体験・表現・交流～

○子どもの**生きる力・学ぶ力**
(人間力)を育てる



☆ふるさとを元気にすることが
学習のゴール

☆体験－表現－交流の
三層が連動する学びの場

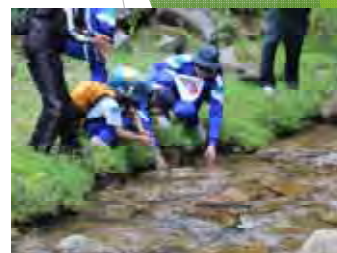
○ふるさと元気学習で行っている主な活動

・体験活動
森での自然体験
ものづくり

・表現活動
ものづくり
新聞・パンフレット ポスター
企画書 報告書

・交流活動
校内の子どもたち
地域の人々
他地域の学校
全国の学校

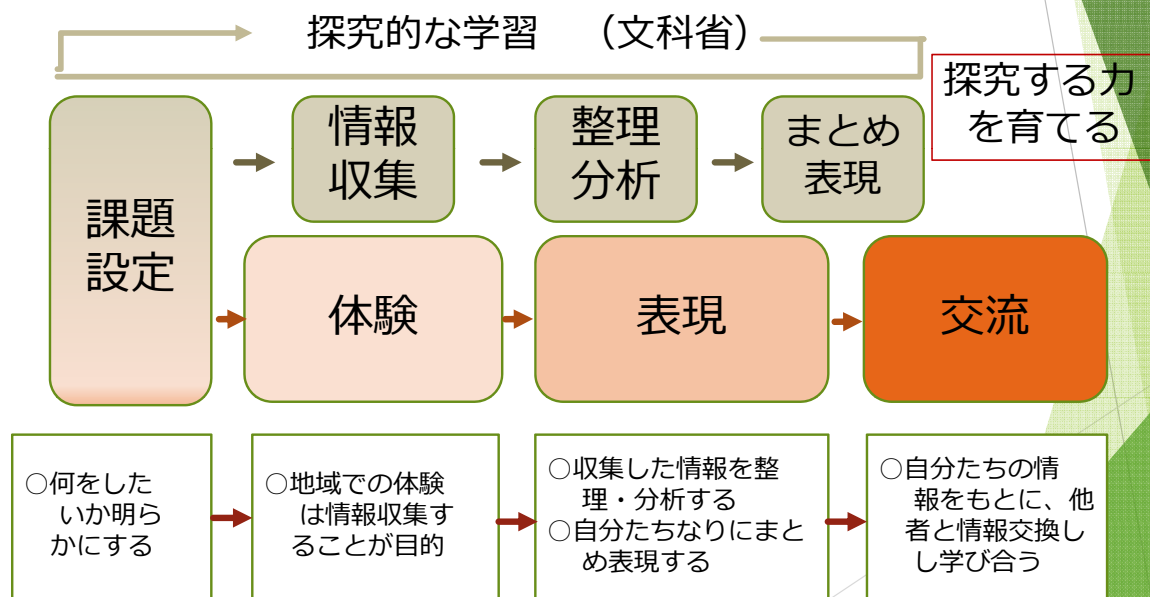
・ふるさと元気給食



ふるさと元気学習

体験－表現－交流する アクティブラーニングの方法

- 探究的な学習を活動形態で言い直したもの
- 子どもも指導者も、学習活動の展開をダイナミックにイメージしやすい
- 交流する活動の重要性を意識できる

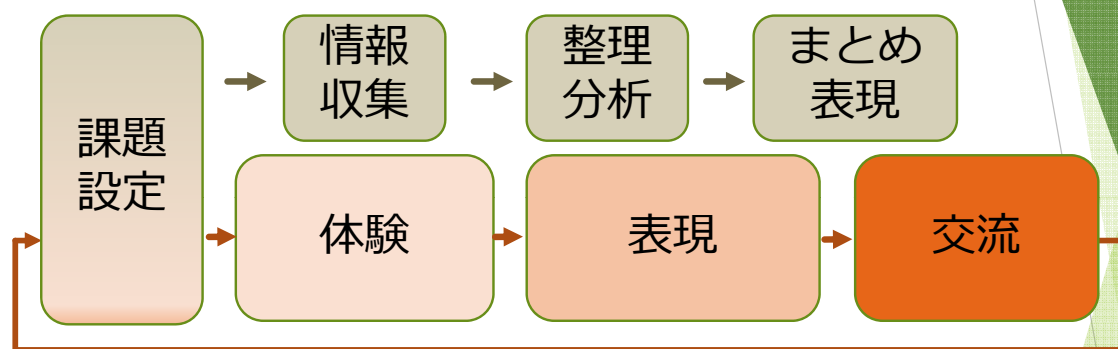


子どもたちの育てようとする力

赤字はESDの視点

1 ふれあい 関わる力	2 自ら考え学び つくり出す力	3 自己を見つめ ともに良く生きる力
五感で感じる力 体験を通して五感を鍛え、ふしぎを感じる心を育てる。 ふれあいよさを感じる力 身近な自然や人と積極的にふれあい、その良さを感じる。 関わり交流する力・コミュニケーション力 身近な自然や人と積極的に関わり、誠意を持って交流しコミュニケーションをはかろうとする。 ④ つながりを重視する態度 自然・人・社会と自分との関連に関心を持ち、それらを尊重し大切にしようとする。	自ら探究する力 ア 課題を設定する力 目的を持ち、実現のための課題や見通しを明らかにする。 イ 情報を収集する力 目的に沿った情報を、必要な手段を活用して収集する。 ウ 情報を分析する力 目的に沿って情報を分類まとめる。集めた情報から価値あるものを考え見つける。 エ 表現・発信する力 相手や目的に応じて、色々な手法でわかりやすくまとめ表現・発信する。 ② 未来像を予測して計画を立てる力 未来像を予想・予測し他者と共有しながらものごとを計画しようとする。 ③ 多面的・総合的に考える力 自然・人・社会などの関連やしくみを理解し、多面的・総合的に考える。 創意工夫してつくり出す力 創意工夫や新たな考えを取り入れ、より良いものをつくり出そうとする。	自己を見つめる力 学習を振り返り自らの生活や生き方を考え高める。 問い直す力(批判する力) 公平な判断に基づいて本質を見抜き、ものごとを建設的、協調的、代替的に考え判断する。 ③ 協力・協同し高め合う力 互いに高め合うという意識を持ち協力・協同して活動する。 ④ 進んで参加する態度 自分の発言や行動に責任をもち、ものごとに自主的・主体的に参加しようとする。

ESDの視点から育てようとする力



○探究する力（課題設定力 情報収集力 整理分析力 表現力）			
○ 未来像を予測して計画を立てる力	○ 協力する力 ○ つながり重視の態度 （○ 感じる力）	○ 多面的・総合的に考える力 ○ 批判する力 （○ 創意工夫してつくり出す力）	○ コミュニケーション力 ○ 進んで参加する態度 ○ 批判する力

ESDの視点から

今後の目指す方向

○村が取り組む循環型社会についての学習

- ・本プログラムの取り組みは、子どもたちの能力や資質を育てるため、森林をフィールドとして活用してきた。



- ・今後は村が取り組む環境モデル都市の学習や、百年の森林構想に基づく持続可能な村づくりの取り組みを、子どもたちにわかりやすく学ぶことのできるスキル面を身につけるプログラムをつくることが望まれる。
- ・これまでの子どもたちの力を伸ばすプログラムに加え、持続可能な社会の実現に向けた知識や技術を学ぶプログラムの両輪を持つことで、総合的にESDを学ぶことができる環境が整うと考え得る。